

第65回

# 大原孫三郎記念講演会

孫三郎  
総一郎

—大原記念労働科学研究所百周年記念シンポジウム—

# 「わしらの眼は 100年先が 見える」

基調講演

演題

「百年先が見えた男—大原総一郎—」

講師

作家 江上剛氏

シンポジウム

大原孫三郎の思いを紡ぐ労働科学研究所—SDGsと地域企業—

「研究所の現代的存在価値」 坂本恒夫(大原記念労働科学研究所所長)

「人と機械と労働」 北島洋樹(大原記念労働科学研究所副所長)

「人と組織と地域」 余村朋樹(大原記念労働科学研究所研究部長)

2021年

10/7 木 17:30~20:30

倉敷公民館・大ホール

倉敷市本町 【聴講無料】

(駐車場がないため、自家用車でのご来場はご遠慮下さい。)

定員90名先着順 お申し込みはこちら

感染症の拡大状況によっては、開催中止となる場合がございます。



共催

公益財団法人 有隣会

公益財団法人 大原記念労働科学研究所

お問い合わせ/語らい座 大原本邸(TEL.086-434-6277)

<http://yurinkai-kr.or.jp/>

ご来場の方へお願い

新型コロナウイルス  
感染対策



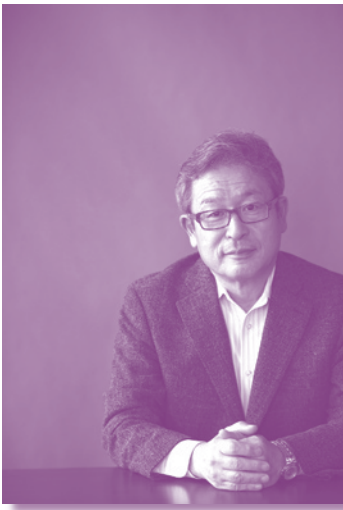
連絡先

大原孫三郎は明治35年「倉敷日曜講演」を創設し、大正14年まで76回開催しました。昭和18年孫三郎の逝去後総一郎に引き継がれ敬堂会講演会となり昭和43年総一郎逝去後は有隣会の主要行事となりました。

本年度は、大原記念労働科学研究所が百周年記念を迎えるにあたり、「わしらの眼は(100)年先が見える」をメインテーマに講演・シンポジウムを共催にて開催いたします。



## 基調講演



えがみ ごう  
江上 剛氏

作家。1954年1月7日生まれ。兵庫県出身。

1977年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、旧第一勧業銀行（現みずほ銀行）入行。梅田・芝支店の後、本部企画、人事関係（総括部、業務企画部、人事部、広報部、行内業務監査室）を経て、高田馬場、築地各支店長を経て2003年3月に退行。

97年第一勧銀総会屋事件に遭遇し、広報部次長として混乱收拾に尽力。その後のコンプライアンス体制に大きな役割を果たす。この事件を元にした映画「金融腐蝕列島」のモデルとなる。銀行員としての傍ら、2002年「非情銀行」で小説家デビュー。経済小説、ビジネス書を中心に著作は100冊を超える。2019年発刊の「百年先が見えた男」（PHP文芸文庫）は、大原総一郎の激動の人生を描いた作品。

## シンポジスト



さかもと つねお  
坂本 恒夫

大原記念労働科学研究所 所長

1979年明治大学大学院博士課程修了、第一経済大学講師、創価大学助教授、明治大学経営学部教授を経て、2019年桜美林大学に特別招聘教授として着任。同年、大原記念労働科学研究所所長。日本中小企業・ベンチャービジネスコンソーシアム会長。日本労働科学学会事務局長。専門は経営学。



きたじま ひろき  
北島 洋樹

大原記念労働科学研究所 副所長・主任研究員

1989年慶應義塾大学大学院修士課程心理学専攻修了。1991年労働科学研究所入所。人間工学、産業心理学的アプローチによる労働科学を実践中。VDT作業、テレワーク、自動車や券売機などの機器インターフェースに関する、現場を志向した研究に従事。



よむら ともき  
余村 朋樹

大原記念労働科学研究所 研究部長・主任研究員

2004年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。同年、労働科学研究所入所。産業組織における安全文化の評価・向上方法の開発、請負構造と労働災害の関連分析、産業場面における安全上の諸問題をシミュレートした教育課題と実践方法の開発などの研究に従事。



大原記念  
労働科学研究所

働く人の安全・健康・衛生・環境に関わる研究を通して社会貢献を目指すシンクタンク。1921年7月1日、大原孫三郎により倉敷紡績万寿工場内に倉敷労働科学研究所として誕生。医学・生理学者の<sup>てるおかぎと</sup>暉峻義等（東京帝国大学医学部生理学教室出身、産業衛生協議会（現：日本産業衛生学会）の設立者）を初代所長とし、紡績労働者の健康と生産能率の研究のみならず、農民、開拓民などの生活・健康問題を調査・研究。1937年に日本学術振興会に寄託され、財団法人労働科学研究所と名称変更。東京へ移転。以後、青山、世田谷、川崎への移転を経て、2015年9月に公益財団法人大原記念労働科学研究所と名称を変更するとともに、東京都渋谷区へ移転し、現在に至る。世界的にみても、労働安全衛生に関して一世紀にわたり存続する民間の研究機関は極めて珍しく、国際社会でも高い評価を受けている。